

## 看護系大学生が考える青年期の life events と life tasks

阪井幸恵, 藤田倫子

高知大学医学部看護学科 〒783-8050 高知県南国市岡豊町小蓮

### Life events and life tasks of Adolescence that the baccalaureate nursing students were considered

Yukie SAKAI · Michiko FUJITA

Dept. of Nursing, Kochi Univ. Kohasu, Oko, Nankoku City Kochi (783-8505) Japan

#### 要約

青年期は、子どもから大人へと心身の成熟を迎え、社会人として様々な責任を担う立場になるための準備期間である。その青年期にある看護学生が考える自分たちの life events と life tasks について考察し、その特徴を明らかにした。対象学生は 22 名であり、学生が考える青年期の期間は平均 12~18 歳であった。学生が考える life events は 6 つに分類された(コード員数 65)。その内訳は、[義務教育の修了と高校・大学へと将来の進路を考えながら受験勉強をしたこと]、[部活や学内・学外活動をしたこと]などであった。学生が考える life tasks は 6 つに分類された(コード員数 103)。その内訳は、[学校生活、友人関係を通して社会性を身につけていくこと]、[精神的発達を自負すること、自分の存在を確認、混乱・動揺の体験、世界や他分野への興味を通して自我同一性を確立していくこと]などであった。学生の life events は、学習環境の変化に適応していったことであり、life tasks では社会性・自己概念の獲得などの特徴から、自己形成の環境や対人関係に対する課題を抱えていることがわかった。これらのことから、看護学教育の内容としては、自己探求・人間関係を基盤にすえて人間関係へと発展させる重要性が再認識された。

#### Abstract

Adolescence is a transitional stage of human development that occurs between childhood and adulthood. This study investigated that life events and life tasks of themselves whom the baccalaureate nursing students who were in adolescence were considered, and the feature was clarified. Term of adolescence the students were considered were that advantage was 12-18 years old, the shortest term was 11-13 years old, and the longest term was 18-30 years old. Life events were categorized 6 categories. There were "End of Compulsory education, and studying an examination as we were thinking (n=36)",

“It has pride in the spiritual growth, and my existence is confirmed, and the ego identity is established through the experience of confusion and the shake, the worlds, and the interests in another field. (n=18)” . The student is holding the problem to the environment and the interpersonal relationship. As a result, the importance of the subject of the interpersonal relationship was recognized again by the nursing education content.

キーワード：看護学生、青年期、ライフイベント、ライフタスク

Key words : the baccalaureate nursing students, Adolescence, life events, life tasks

### 緒言

青年期は、子どもから大人へと心身の成熟を迎え、社会人として様々な責任を担う立場になるための準備期間である。しかし、現代における青年期は、「社会経済的独立の時期が遅くなる」「両親への依存期が延びる」という特徴を持っている<sup>1)</sup>。看護学教育の対象は、青年期にあるひとが多く、看護学教育の中でひととしての成長も促しながら、看護専門職者として知識・技術・態度を身につける教授学習試案が必要となる。よって、現代の看護教育の対象のの特徴を捉え教授していくことが重要となる。

### 研究目的

青年期にある看護学生が考える自分たちの life events と life tasks について考察し、その特徴を明らかにした。

### 用語の定義

青年期：14、15歳から24、25歳までの性的成熟に伴う急激な身体的変化が現れ、心理的には内省的傾向、自我意識の高まりがみられる時期

life events：成長・発達上の重要な出来事

life tasks：成長・発達課題

### 研究方法

対象：某看護系大学1年生60名のうち同意が得られた22名(女性)

調査期間：2007年1月

調査内容：学生個人が考えた青年期の期間とその life events・life tasks

分析方法：それぞれの学生が考える青年期の期間と life events・life tasks について記述したレポートの内容をコード化し、意味内容の類似するものをカテゴリー化、ネーミングを行った。

倫理的配慮：研究者が研究目的、方法、研究への参加および拒否の自由、研究参加の有無が成績に関係しないことなど口頭および文書で説明し、承諾書を得て提出されたレポートを研究対象とした。

## 結果

学生が考える青年期の期間は平均 12～18 歳、最短期間は 11～13 歳 (n=1)、最長期間は 15～27 歳 (n=1)、18～30 歳 (n=1) であった。

### 1. 学生が考える life events (表 1)

学生が考える life events の員数は 65 であり、6 つのカテゴリーが導出された。その内訳は、[義務教育の修了と高校・大学へと将来の進路を考えながら受験勉強をしたこと (n=36)][部活や学内・学外活動をしたこと (n=10)][身体的成長・第 2 次性徴を自覚したこと (n=7)][成人式・就職・結婚をすること (n=5)][反抗期 (n=4)][中学・高校・大学への進学に伴う環境の変化に適応していったこと (n=3)] であった。

#### 1) [義務教育の修了と高校・大学へと将来の進路を考えながら受験勉強をしたこと]

「入学・進学・卒業 (n=25)」、「受験 (n=5)」、「進学のための受験勉強 (n=4)」、「進路決定 (n=2)」があった。「入学・進学・卒業 (n=25)」の内訳は、「義務教育の終わり」、「小学校・中学校・高校入学、卒業」、「大学進学」であった。「受験 (n=5)」では、「高校・大学入試」や「初めての難関、受験」といった内容が挙げられた。

#### 2) [部活や学内・学外活動をしたこと (n=10)]

「学内活動 (n=6)」、「学外活動 (n=2)」、「学内行事 (n=2)」であった。「学内活動 (n=6)」では、「部活に入部する」、「生徒会に入る」などがあった。「学外活動 (n=2)」では、「JICA の研修に参加」、「チャリティーコンサートに参加」があった。「学内行事 (n=2)」では、「修学旅行」があった。

3) [身体的成長・第 2 次性徴を自覚したこと (n=7)] では、「性的成長」や「初潮」などがあった。

4) [成人式・就職・結婚をすること (n=5)] では、「就職 (n=2)」、「結婚 (n=2)」、「成人式 (n=1)」であった。

5) [反抗期 (n=4)] では、「親・教師への反抗期」、「親に対する反抗」があった。

6) [中学・高校・大学への進学に伴う環境の変化に適応していったこと (n=3)]

「中学校入学により、縦社会を経験した」や「高校入学によって新しい友達、環境に変化した」という内容であった。

表1 学生が考える life events

大カテゴリー	中カテゴリー	ローデータ
義務教育の修了と高校・大学へと将来の進路を考えながら受験勉強したこと	入学・進学・卒業	・義務教育の終わり ・小学校・中学・高校に入学・卒業 ・大学進学
	受験	・高校・大学受験 ・受験(初めての難関)
	進学のための受験勉強	・大学入学のための受験勉強
	進路決定	・進路決定
成人式・就職・結婚をすること	成人式	・成人式
	就職	・就職
	結婚	・結婚
反抗期	反抗期	・親・教師への反抗期
身体的成長・第2次性徴を自覚したこと	身体的成長・第2次性徴	・成長期 ・性的成長 ・初潮をむかえる ・男女の仲間とのより成熟した付き合いの発達
部活や学内・学外活動をしたこと	学外活動	・チャリティーコンサートに参加し、 たくさんの仲間と良い経験をする ・JICAの研修に参加
	学内活動	・クラブに入る
	学内行事	・生徒会に入る
中学・高校・大学への進学に伴う環境の変化に適応していったこと	進学による環境の変化	・縦社会を経験 ・新しい友達、環境、勉強が変化した ・中学に入学して友達が増える

## 2. 学生が考える life tasks (表2)

学生が考える life tasks の員数は103であり、6つのカテゴリーが導出された。その内訳は、[学校生活、友人関係を通して社会性を身につけていくこと(n=39)][精神的発達を自負すること、自分の存在を確認、混乱・動揺の体験、世界や他分野への興味を通して自我同一性を確立していくこと(n=18)][セクシュアリティやジェンダーについて考えていくこと(n=14)][将来を予測し進路を選択すること(n=12)][親からの自立と家族の中での自分の役割を考えていくこと(n=11)][自分の将来を考えて学習能力を獲得していくこと(n=9)]であった。

### 1. [学校生活、友人関係を通して社会性を身につけていくこと(n=39)]

「責任感や集団行動を身につける(n=8)」、「社会性の獲得(n=8)」、「人間関係の構築(n=7)」、

「学校生活を楽しむ(n=7)」、「人間関係を保つ能力の獲得(n=4)」、「学校生活への適応(n=3)」、「他者との共感(n=2)」が挙げられた。

「責任感や集団行動を身につける(n=8)」では、“部活動でチームをまとめることの難しさを知る”、“責任ある立場になったときにみんなをまとめる”、“部活動で上下関係の厳しさ・重要性を学ぶ”、“生徒会活動でやりたいことの理念を掲げることの大切さを知った”、“部活動で責任感を養う”などがあつた。「社会性の獲得(n=8)」では、“新しい環境で社会を知る”、“釈迦に貢献できる人間になりたい”、“社会勉強のためアルバイトをする”などがあつた。「人間関係の構築(n=7)」では、“様々な人と友達になる”、“人間関係を充実させる”、“様々な人と話せるための社会性を身につける”、“新しい人間関係を築く”などがあつた。「学校生活を楽しむ(n=7)」では、“学校生活を楽しむ”、“学校生活で今しかできないことを頑張る”などがあつた。「人間関係を保つ能力の獲得(n=4)」では、“人間関係を円滑に保つ方法を知る”、“人間関係を円滑に保つ”、“人間関係の大変さを知る”、“人間関係に悩む”があつた。「学校生活への適応(n=3)」では、“学校生活に慣れる”があつた。「他者との共感(n=2)」では、“友達とのつながりが強くなる”、“親から自立しようとする仲間と共感しあう”があつた。

2. [精神的発達を自負すること、自分の存在を確認、混乱・動揺の体験、世界や他分野への興味を通して自我同一性を確立していくこと(n=18)]

「精神的発達(n=6)」、「混乱・動揺の体験(n=5)」、「自分の存在を確認(n=4)」、「世界や他分野への興味(n=3)」が挙げられた。

「精神的発達(n=6)」では、“外見を気にする”、“起こる問題の予測と回避、解決”、“精神の発達”、“大人に近づいていることを自覚する”などがあつた。「混乱・動揺の体験(n=5)」では、“青年期に自分がわからなくなつた”、“青年期に無気力になつた”、“青年期に逃げ出したくなつた”、“青年期はいろいろ考えるきっかけになつた”などがあつた。「自分の存在を確認(n=4)」では、“自分と向き合う”、“アイデンティティについて考える”、“アイデンティティの確立が必要”、“個性を追求・確立”があつた。「世界や他分野への興味(n=3)」では、“国際協力への興味”、“沖縄の歴史を学ぶ”、“自ら学ぶ”があつた。

3. [セクシュアリティやジェンダーについて考えていくこと(n=14)]

「性の認識(n=8)」、「異性との関わり(n=4)」、「第2次性徴に対する不安(n=2)」が挙げられた。

「性の認識(n=8)」では、“身体的変化を認める”、“初潮”、“身体の構造が大人に近づく”、“身体的変化を成長の過程と捉える”、“性的役割を身につける”、“身体的成長と変化に適応する”があつた。「異性との関わり(n=4)」では、“男女の付き合い”、“異性を意識する”、“異性への興味”などがあつた。「第2次性徴に対する不安(n=2)」では、“身体的変化は自分でコントロールできないことによる不安”、“個人差のある身体的変化に不安”があつた。

4. [将来を予測し進路を選択すること(n=12)]

「自分の将来のための進路選択(n=4)」、「将来について考える(n=4)」、「自分の将来のた

めの努力(n=2)」、「将来の予測(n=2)」が挙げられた。

「自分の将来のための進路選択(n=4)」では、“看護師になるための大学進学”、“自分のやりたいことを考え受験に挑んだ”、“将来のための進路選択”などがあつた。「将来について考える(n=4)」では、“将来したい仕事について考える”、“自分に合った職に就くために自分と向き合う”、“将来と職業について考える”があつた。「自分の将来のための努力(n=2)」では、“将来を踏まえて今するべきことをする”、“自己実現に向けて頑張る”があつた。「将来の予測(n=2)」では、“看護師になるために国家試験に合格”、“看護師免許を取得する”があつた。

5. [親からの自立と家族の中での自分の役割を考えていくこと(n=11)]

「親からの自立(n=8)」、「家族役割の変化(n=3)」が挙げられた。

「親からの自立(n=8)」では、“親から自立するために就職する力をつける”、“1人の人間として一人前になるために親から独立する”、“家族からの自立心を確立”、“親からの情緒的独立の達成”などがあつた。「家族役割の変化(n=3)」では、“家族との関係が変化する”、“親を手伝う”、“家族の一員として役割を認識”があつた。

6. [自分の将来を考えて学習能力を獲得していくこと(n=9)]

「学習能力の獲得(n=5)」、「自分の将来のための学習能力の獲得(n=4)」が挙げられた。「学習能力の獲得(n=5)」では“受験勉強に励む”などがあり、「自分の将来のための学習能力の獲得(n=4)」では“受験勉強が進路を考えるきっかけになる”や“将来のことを考えて勉強する”があつた。

表 2 学生が考える life tasks

大カテゴリー	中カテゴリー	ローデータ
自分の将来を考えて学習能力を獲得していくこと	学習能力の獲得	・高校・大学受験で勉強を頑張る ・基本的な読み書き計算技能の発達
	自分の将来のための学習能力の獲得	・受験勉強をする ・自分の進路を考えるきっかけになる ・将来を踏まえた上で勉強しなければならない
将来を予測し進路選択をすること	自分の将来のための進路選択	・看護師になりたいという夢を叶えるために大学に合格する力をつけたい ・経済的に実行しうるキャリアへの準備
	将来について考える	・将来したい仕事について考える ・将来と職業について深く考える
	自分の将来のための努力	・自分の未来を考えて、今やるべきことをやる ・なりたい自分について努力
	将来の予測	・看護師免許取得
学校生活、友人関係を通して社会性を身につけていくこと	学校生活への適応	・高校生活に慣れること
	学校生活を楽しむ	・学校生活を楽しむ
	人間関係の構築	・いろいろな性格の人たちと友達になる ・人間関係をより充実させたものにする ・社会的な関係を広げる
	人間関係を保つ能力の獲得	・人芸関係がもつれ、思い悩んだりする
	責任感や集団行動を身につける	・中学校で学級委員、責任感を養う
	社会性の獲得	・アルバイトを始める ・選挙にちゃんと行く
親からの自立と家族の中での自分の役割を考えていくこと	他者との共感	・友達との繋がりが強くなる
	親からの自立	・親からの独立
	家族役割の変化	・家族との関係が変化する
セクシュアリティやジェンダーについて考えていくこと	異性との関わり	・男女のより成熟した付き合いの発達
	性の認識	・変化する身体の承認
	第2次性徴に対する不安	・(身体の変化は)個人差が大きく不安になる
精神的発達を自負すること、自分の存在を確認、混乱・動揺の体験、世界や他分野への興味を通して自我同一性を確立していくこと	精神的発達	・精神の発達・大人に近づいていることに気づく
	自分の存在を確認	・アイデンティティの確立 ・自分と向き合う
	混乱・動揺の体験	・自分がわからなくなった ・逃げ出したくなった
	世界や他分野への興味	・国際協力への興味・自ら学ぶ

## 考察

学生が考える青年期の期間から、現代の看護学生が青年期を早い年代と捉えていることがわかった。

本研究で、学生はLife tasksで社会性の獲得の員数が多い特徴から、環境や対人関係に対する課題を抱えていることがわかった。石黒<sup>2)</sup>は、現代の青年期について、一般の若者がもつ人間関係の問題点はその範囲の狭さと表面的なつきあいが優先であることと述べている。看護職者に必要な資質は様々であるが、辻野<sup>3)</sup>は看護系大学1年生を対象に看護者としての資質のアンケート調査を実施し「他者理解や関係性を保つための自己理解」、「科学的思考力に基づいた技能性」、「他者に対する共感性」という因子が抽出されたと述べている。現代の学生にとって看護教育で他者理解や共感、それを達成するためのコミュニケーション能力の育成の必要性が再認識された。

看護系大学生の青年期の特徴としては、「看護師免許の取得」など具体的な将来設計に関すること、または将来に向けての具体的な目標が挙げられていることである。そのため、学生は大学入学時より看護に対する興味がある学生が多い<sup>4)</sup>。それと同時に、学生は自分がこの職業に向いているのかという不安もある<sup>5)</sup>。本研究で学生がlife tasksに「受験勉強」や「将来の決定」を多く挙げていることから、学生は未熟な精神状態の中で将来に関して決定しなければならない環境におかれていることがわかる。このような状態で看護系大学に入学し、専門職教育を受けるにあたって、不安が起こるのは必然的である。看護教育では、このようなバックグラウンドを持つ学生が対象であり、学生自身の自己成長や自己実現を中核にすえた教授・学習の展開が必要である。

灘<sup>6)</sup>は、看護学が臨地実習において看護職業人としての行動変化があったと述べている。臨地実習は、学生が看護に関する知識・技術を獲得する場のみならず、学生がコミュニケーション能力や人間関係について学ぶ場であると言える。

以上のことから、現代の看護教育において、教育者が現代の青年期の特徴をとらえ、学生を専門職者として成長させる前段階として学生の自己成長や自己実現を踏まえた教授方法、日々の関わりを行う必要があると考える。

## 結論

1. 看護学教育では自己探求・人間関係についての科目の重要性が再認識された。
2. 学生自身の自己成長や自己実現を中核にすえた教授・学習の展開が必要である。



引用・参考文献

- 1) 宮本みち子(1995), “脱青年期” の出現にみる少子社会の親子のゆくえ, 季刊家計経済研究, 25;31-40.
- 2) 石黒久美(1999), 看護学生への人間関係教育の現状 I 現代青年の意識構造調査より 足利短期大学研究紀要, 19;9-20.
- 3) 辻野朋美 上野範子 緒方巧 山口智子 矢野正子(2005), 看護学生の看護職者としての資質に関する研究, 藍野学院紀要, 19;79-88.
- 4) 野田貴代 出口陸雄 (2004), 看護短期大学性の入学時の自己効力感とその関連要因及び教員に除く関わりとの関連性, 看護総合化学研究会誌, 7(3);23-35.
- 5) <sup>4)</sup>同掲書
- 6) 灘久代(2004), 看護学生の臨地実習における行動変化と態度育成, 島根県立看護短期大学紀要, 9;33-38.

(受理日平成 20 年 1 月 10 日)